誠愛リハビリテーション病院

第19回誠愛院内勉強会：H22年度各部署の展望

誠愛リハ病院から東に見える筑紫富士は砥上岳(497m)のようです

日本医療機能評価機構認定病院

日本神経学会教育関連病院

日本脳卒中学会認定研修教育病院

日本老年医学会認定研修教育病院 (新規 H21/4/1認定済み)

将来的には日本リハビリテーション医学会認定研修教育病院にしたい --- 今後、リハビリ専門医は必ずneedsが高まると思う

H21年度から
ロゴマークや

Seiai
Rehabilitation
Hospital

ホームページ
も全面改訂！

〒816-0956　福岡県 大野城市 南大利 2丁目 7番 2号

H21年度の反省とH22年度の展望：1
- 未来の展望同様、現在・過去の分析も必要不可欠 -

- 回復期リハビリテーションに特化した中規模病院　　●字は昨年度の積み残し課題
  - 脳卒中リハビリテーション主体の病院としての設備/人的サービスの充実（リハ医など）
  - 定期的な院内勉強会（2年間で19回）、毎日の「医学の豆知識」放映の定着（H21年4月～）
  - 老年医学会認定研修教育病院や脈管医学専門医の取得 → いずれも実現：将来、勤務医にも多少の利点
- 周辺の急性期病院群や開業医Drsとの連携強化
  - 医師会に協力して脳卒中地域連携パスの構築と実践 → 連携パス研究会発表
  - 近隣開業医と誠愛病院の勉強会（H21年4月に続き → H22年1月リラックスカンファとして再開（年2回）
  - H20年度年報の完成 → 一部関連施設に送付、あるいは書面で案内（H22年3月）　次号は早く！
  - 訪問歯科診療の先生方や福岡歯科大学と、抗血栓薬服用中の歯科治療、口腔ケアなどの共同研究
- アカデミズムある臨床研究の継続、海外含む学会への発表/業績執筆
  - 日本リハ医学会、回復期リハ病棟連絡協議会へ参加、脳卒中関連学会への発表/執筆を継続
    →H22年2月、OT長田らが学会抄録賞受賞：医局その他の部署も努力したいところ
    (∴スタチン研究発表)
  - 病院全体による「脳卒中リハビリテーションとチーム医療」テキスト執筆・発刊予定(H22年秋頃)

Seiai Rehabilitation Hospital　誠愛リハビリテーション病院

H21年度の反省とH22年度の展望：2

- 優しいチーム医療の推進、誠実で患者さんの立場にたった病院作り
  - 患者や家族の皆さん向けに分かり易い情報提供を行う（院内紹介ビデオやDIニュース）
  - 患者さん方のご意見箱、medical mediator systemの新規導入（H21年秋から平田氏）
    → 患者さん、職員いずれもクレームや困ったことがあればご相談下さい - ”報連相”
- 職員が目的を明確化し、同一方向ベクトルに向かい正しく働く
  - 各部署間でレベルを統一したBSCを作成、具体的に尚めの目標設定
    →人事考課制度を見直し、当院固有のシートを作成
  - 閉じこもったオンリーワンよりも、やはり開かれたナンバーワンを目指しましょう
- 贅沢や無駄を省き、経営の効率化、患者さんや社会に奉仕/還元する
  - 管理部、医局、リハ部、看護部ほか効率の良い仕組みの見直し
  - 入院･転院などの業務簡便化/効率化：治験コーディネーターやクリニカルクラーク導入
  - 「受診/入院してよかった」と思える環境作り -- 具体的なアイディアを各部署から収集
- Non Sibi, Sed Omunibus（Not for self, but for all patients）の基本的精神
  - 綺麗ごとのようで、「言うは易く、行うは難し」ですが、、、究極はこれだと思います
    → 全員が”挨拶”当たり前の、明るく 楽しく 元気のいい病院にしましょう！

Seiai Rehabilitation Hospital

誠愛リハビリテーション病院

各部署からの今年度の目標/方針

(役職　敬称略)

1) はじめに　　井林　雪郎
　- H21年度の反省とH22年度の展望 -

2) 医局　　楠田　憲治

3) 看護部　　金山　萬紀子

4) リハ部　　林　克樹

5) 管理部　　今村　洋一

6) カトレア　　岩瀬　豊子

7) 小児神経　　黒川　徹

8) 総評　　小野山 薫

Seiai Rehabilitation Hospital

平成22年度第1回誠愛リハビリテーション病院院内勉強会

平成22年度
誠愛リハビリテーション病院活動目標

医局

副院長　楠田憲治

平成22年度の活動目標

1.財務の視点

(1)病床稼働率を上げる。

(2)後発医薬品を増やす

平成22年度の活動目標

2.患者満足の視点

(1)アンケート調査での満足以上の維持

(2)長期当院外来通院リハビリ中の患者さんの
通所リハビリへの移行

平成22年度の活動目標

3.人材育成の視点

医局において新たな臨床研究を開始する。

平成22年度の活動目標

4.業務プロセスの視点

他院あるいは施設への診療情報提供書の早期作成

平成22年度第1回（通算19回）誠愛勉強会

平成22年度活動目標　看護部

看護部　副院長　金山萬紀子

財務の視点

目標：回復期リハ病棟からの期限内の退院　期限延長患者0人

3病棟入院

回復期リハ病棟

- **重症患者1割5分→2割**
- **重症患者のうち3割以上が退院時に3点以上回復**
- **在宅復帰率→60%**

亜急性期病床

療養病棟

- **療養病棟対象の患者の増加**

回復期期限延長患者
平成20年度　54名　　平成21年度　22名
↓
期限延長患者　0を目標に！！

患者満足の視点

目標：退院後のフォローアップ（継続看護）　36件/年間

平成21年度の看護部目標：「再発防止のための患者教育の推進」

患者教育実施件数　：年間50件以上→109件

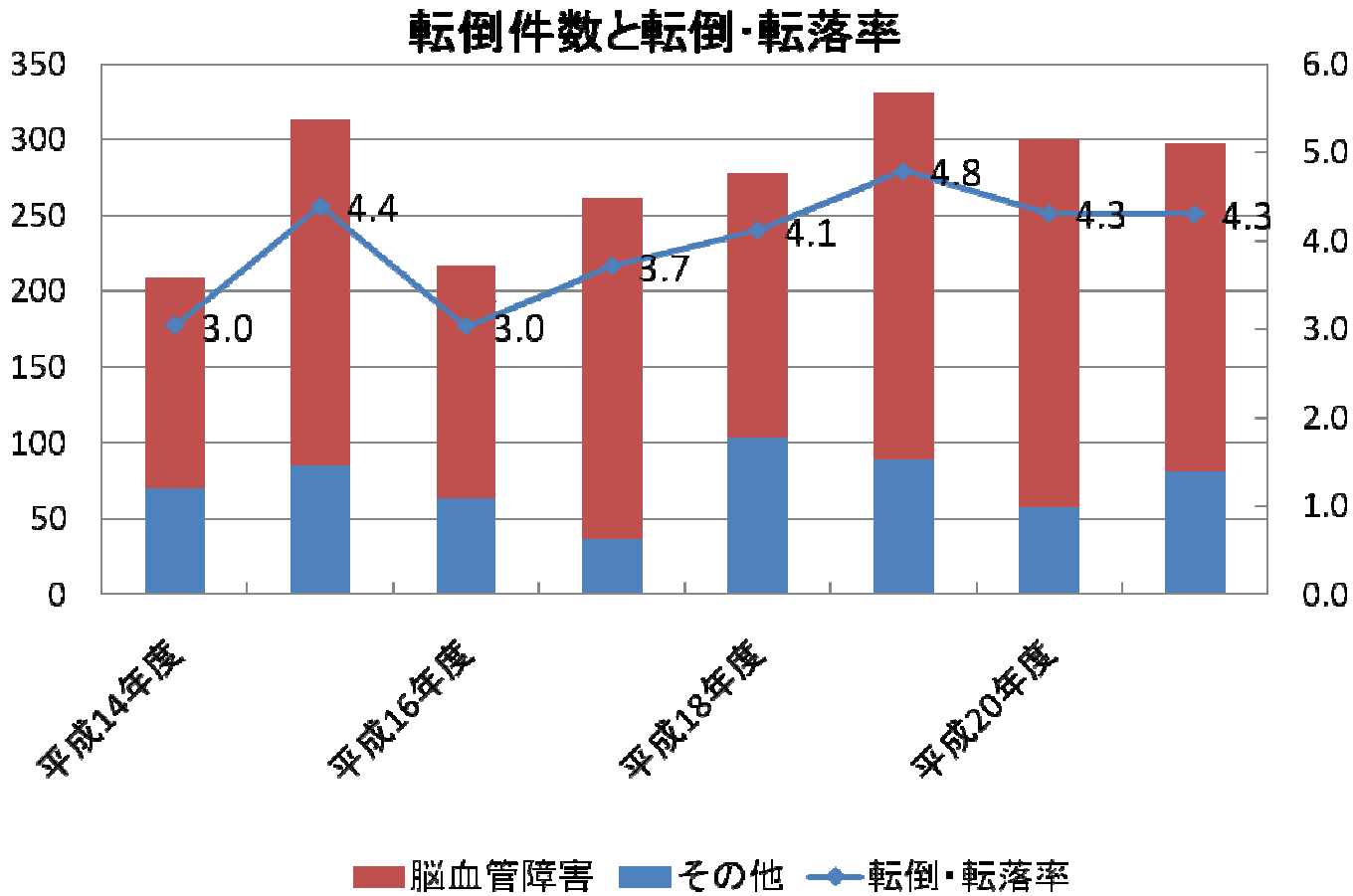
平成22年年度の看護部目標：退院後のフォローアップ（継続看護）

①機能の維持・向上、家族のサポート状況の把握
- 機能の低下がないか
- 社会参加できているか
- 家族が介護への不安や負担になっていることがないか（家族のサポート状況）

②患者教育の効果
- 患者教育が日々の生活に役立っているかをアセスメントし、教育内容に反映させる

業務プロセスの視点

目標：転倒・転落事故件数の減少　前年比10%減



人材育成の視点

目標：学会発表、学会・研修会への参加　年間30件

学会発表
・日本リハビリテーション看護学会
・日本臨床医療従事者学会
・日本看護管理学会

教育
・職種別臨床教育の実施
・ケーススタディの実施

介護福祉士の国家試験受験対策
・平成21年度の合格者5名
・看護補助者47名中介護福祉士21名

誠愛　リハビリテーション病院

リハビリテーション部　2010年度の展望

2010年4月　　林　克樹

リハビリテーション部の基本方針

- 小児から成人の障害を持った方に対して、入院から在宅にいたる連携の取れたリハビリテーションを実施する。
- 発症後の亜急性期から回復期では、最大限の機能回復と活動能力の獲得を積極的に行う。
- 維持期では、更なる機能向上と環境適応能力の拡大を図る。
- ボバース概念を基礎とした神経リハビリテーションを展開し、質の高い日常生活の獲得を目指す。
- 行動障害に対して、応用行動分析により社会適応行動を支援する。
- 地域社会と連携をとりながら、個々のニーズや状況に応じた在宅復帰や社会参加を支援する
- リハビリテーションの効果の検証に積極的に努める。
- 臨床に根ざした学術研究および研修活動を積極的に行う。

平成22年度診療報酬改定に伴って

疾患別リハビリテーション料の改定

脳血管リハビリテーション料（Ⅰ）

点数引き上げ： 235点 から 245点 ↑(廃用症候群以外)

廃用症候群とそれ以外に区分（Ⅰ）及び （Ⅱ）

運動器リハビリテーション料

Ⅰ(新設: 入院患者さんに対して) 170点 から 175点 ↑

Ⅰ→Ⅱ(外来患者さんに対して) 170点 から 165点 ↓

早期リハビリテーション可算 30点 から 45点 ↑

回復期の充実したリハビリテーションの提供

休日リハビリテーション提供体制加算(休日を含み7 日/週) 60点/1日

リハビリテーション充実加算 （一日6単位以上） 40点/1日

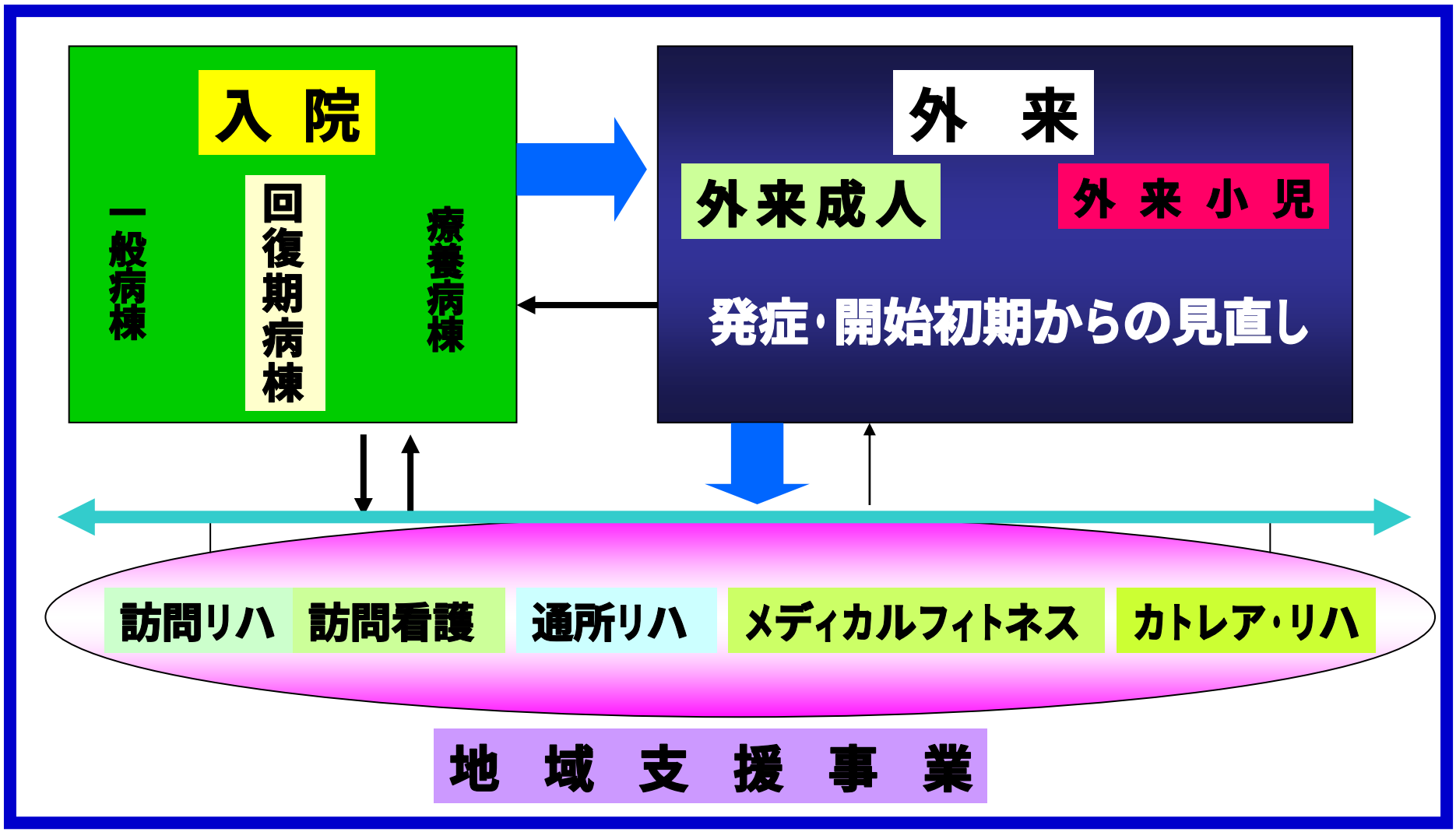
リハビリテーション提供体制加算 （亜急性期病棟） 50点/1日

リハビリテーション部の目標

各部署への適切な人事配置と、それぞれの部署に応じた専門的知識と技術の向上により安全かつ効果的なリハビリテーションの提供が行えること、その結果効率的な収益の確保ができること、これらを実現するためのシステムを構築すること。

適正配置と高機能を目指した連携

169名(＋11名) → 151名(10名)



地域支援事業

- 療育事業
- 介護予防事業
- 子ども療育相談
- 三歳児検診

筑紫野市

春日市

平成22年度リハビリテーション部年度体制

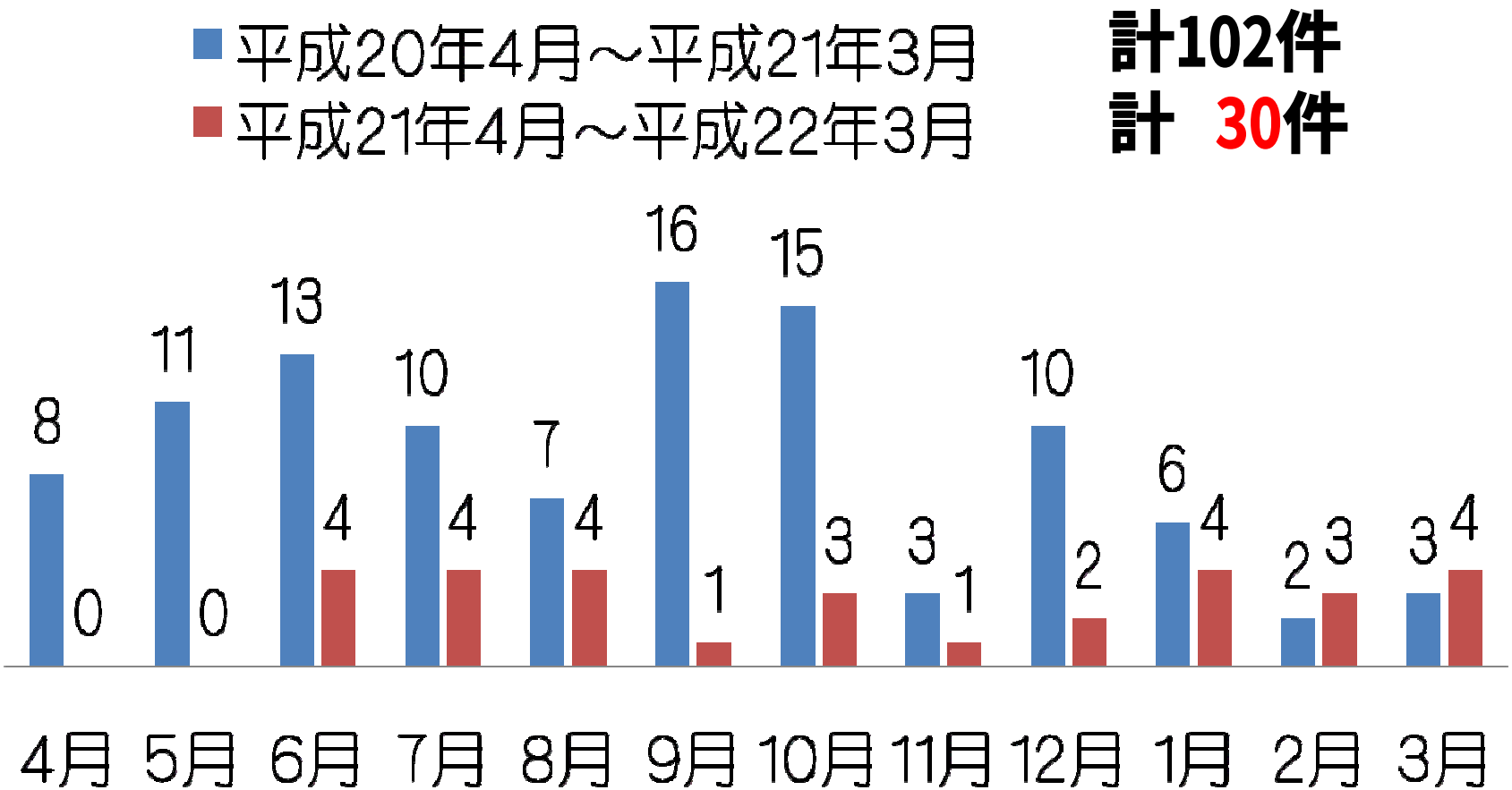
スリム化した高機能のリハビリテーション部体制の確立

適　正　な　人　員　配　置

患者さんを中心とした部署・スタッフ間連携

ス　タ　ッ　フ　教　育

月別転倒・事故の全体総数



教育と研修

専門的　知識と技術の向上

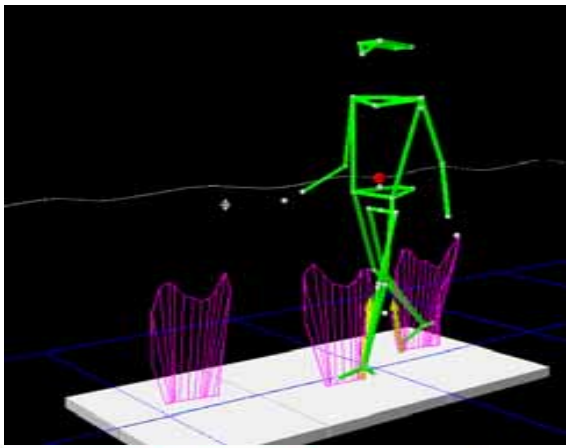
↑

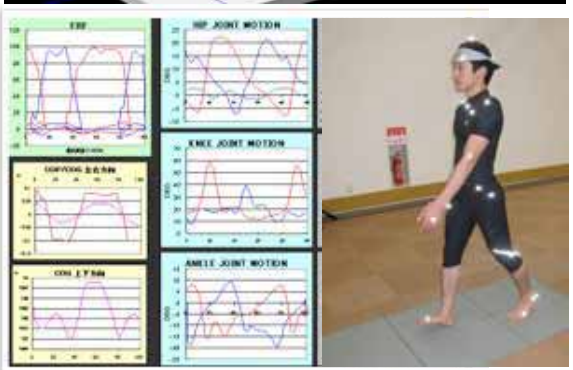
- 内部勉強会・研修会
- 外部交流を伴った研修会
- 研究活動・学会発表
- 臨床実習生の指導・教育
- スパーバイズによるスタッフ教育

リハビリテーション部の教育体制の充実

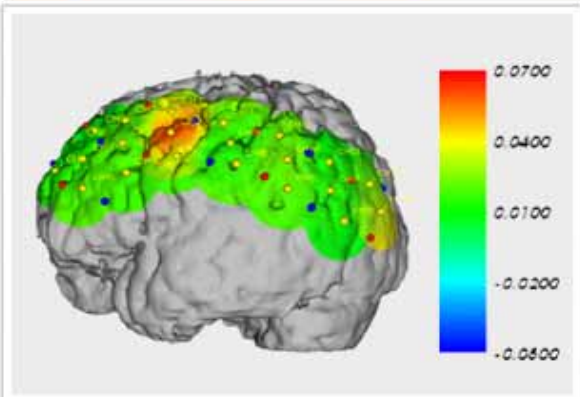
研究活動・発表

三次元動作解析装置

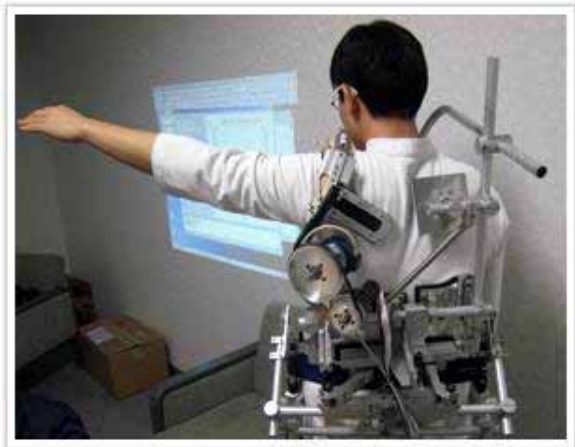




近赤外線イメージング装置
(f-NIRS)



上肢、手治療用ロボット開発



演題発表数

2008年　26演題　⟶　2009年　27演題

ロボット開発の過程

九州大学大学院工学研究院
機械工学部門との共同研究

【2004/11】誠愛リハと最初の話し合いが持たれる：当初は特に目的を定めていない
【2005】お互いの分野の情報を持ち寄り、ミーティングを続ける（当初はＡＦＯ）
【2005/12】大阪身体障害者福祉センターへInMotion2を見学
【2006】肩甲骨把持の試みの開始
【2007】機械学会バイオエンジニアリング発表(最初の発表)
【2007/6】JSTシーズ発掘試験採択（肩甲骨モータ駆動）
【2008/1】肩甲骨把持の評価とフレームのアルミ化と
【2008/4】ロボット学会誌の解説記事で紹介
【2008/6】理学療法学会・作業療法学会での発表の開始
【2008/9】体幹部モータ駆動の開始
【2008/11】誠愛リハと共同研究開始
【2009/3】着座状態の到達把持へ集中
【2009/6】福岡県ロボット産業振興会議ＦＳ枠採択
【2009/7】測定システムとしての使用の強化
⇒装置の必要性の臨床的評価
【2009/10】九大倫理委員会の確認
【2009/10】股関節駆動機構の開始
【2010/2】股関節からすべての駆動
【2010/4】文部科学省　科学研究費助成金

2006

2005/12

2007

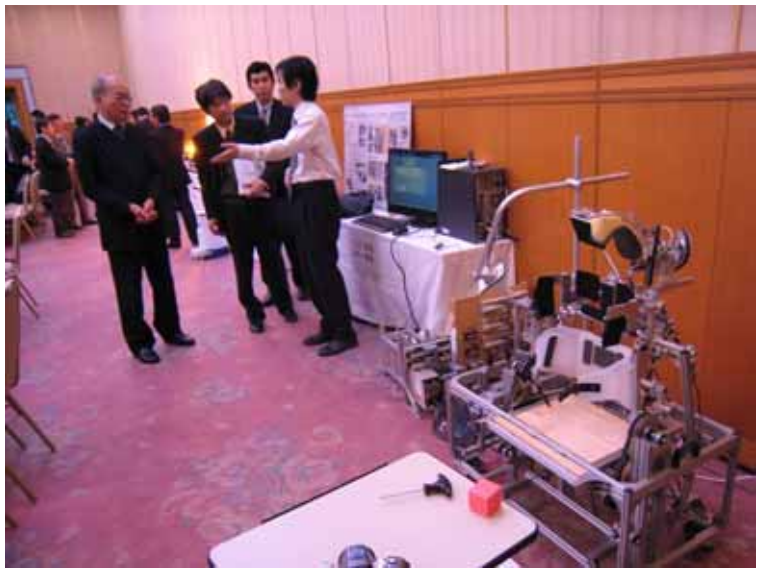
2008 JST

2009/3

2009/7

2010/2

福岡県ロボット産業振興会議　定期発表会 (県庁新産業課)



2010年3月8日　ホテルレガロフクオカ

ロボット研究活動内容

- 第19回バイオエンジニアリング講演会　仙台　2007/1/7~1/8
- 日本生体医工学会九州支部　九州　2007/3/3
- ROBOMEC　2007　秋田　2007/5/10~5/12
- アジア太平洋バイオメカニックス会議　東京　2007/11/5~11/8
- 第43回日本理学療法学会　福岡　2008/5/15~5/17
- 第42回日本作業療法学会　長崎　2008/6/20~6/22
- 第40回バイオエンジニアリング講演会　東京　2008/1/25~1/26
- ロボティクス･メカトロニックス講演会　長野　2008/6-5~6/7
- フクオカ研究･ビジネス最前線　福岡　2009/3/6
- SAGAテクノ2009夏~産学連携技術交流会~　佐賀　2009/07/06
- 日本機会学会バイオエンジニアリング講演会　岡山　2010/01~09
- 平成21年度日本生体医工学会九州支部講演会　福岡　2010/03/06
- ロボット産業振興会議平成21年度成果発表会　福岡　2010/03/08

- 第 45日本理学療法学会　岐阜　2010/5/27~29
- 第 44回日本作業療法学　仙台　2010/6/11~13
- 日本機会学会ロボテックスメカトロニックス講演会　北海道　2010/6/14~16
- 第 22回日本機会学会バイオエンジニアリング講演会　2010/01
- 6th World Congress on Biomechanics(2010), Singapore,　2010/8月頃

論文投稿

Journal　of Biomechanical Science and Engineer

日々のリハの実施で考え、目指してほしいこと

患者が抱えている問題の原因を知る。
最適な治療法を考え選択する。
治療がどのように効果的であったか確認、
検証する。

問題解決の技術、推論、情報の分析と解釈
発見する内容や結果を予測する能力を磨く

Clinical Reasoning

平成２２年度活動方針

管理部

財務の視点

部門目標　　経費削減による収益向上

各部署の目標

・保険料の削減（火災保険料・損害保険料削減）
・消耗品の削減（使用物品の見直し・選定）
・光熱費の削減（改正省エネ法への対応）
・委託、保守契約の見直し（契約内容と業者の見直し）
・送迎ルートの見直し（再編成）
・減点削減
・医薬品の在庫管理
・フィルム管理の厳正化

患者満足の視点

部門目標　　患者満足度の向上

各部署の目標

・身だしなみの徹底 （研修等による意識改革）
・待ち時間の短縮 （待ち時間調査７月実施）
・クレーム対応（迅速な対応と再発防止の徹底）
・ホームページの改定（三光会全体としての構築・運用）
・インフォメーションボードの見直し（病院案内・医学の豆知識）
・患者さんへの情報発信（タイムリーでわかりやすい情報掲示）
・在宅復帰率7割の達成
・服薬指導
・再撮影の回数削減
・Ｑ、ワイドネットの入力ミス０件
・本館の清掃の徹底（本館廊下と階段の剥離実施）
・バイキングの実施（年２回実施）

業務プロセスの視点

部門目標　　業務の標準化（マニュアルの作成）

各部署の目標

・法改正にともなう諸規程の変更
・当直用設備マニュアルの作成
・清掃マニュアルの見直し
・送迎、フロアサービスの業務マニュアルを作成
・電子カルテ災害時マニュアル作成（外来用と入院用を作成）
・多能化（知識と情報の共有・習熟）
・在宅退院患者の家庭訪問の実施（SWの支援の質向上）
・ヒヤリハット報告件数の減少
・ムース食の導入（嚥下食の確立）

人材育成の視点

部門目標　　個々人のレベルアップを図る

各部署の目標
・部署内勉強会の計画的実施
・外部研修会への積極的参加
・研修会内容の共有化とＯＪＴにより業務の標準化と習熟度を高める
・誠愛版ＤＩ情報集の作成（2月から開始）

2009年度小児勉強会

日　時：毎月第4月曜 5:30p.m.- 6:30p.m.

場　所：4階リハ・作業療法室

テーマ：・方法としての行動療法　2009年1月

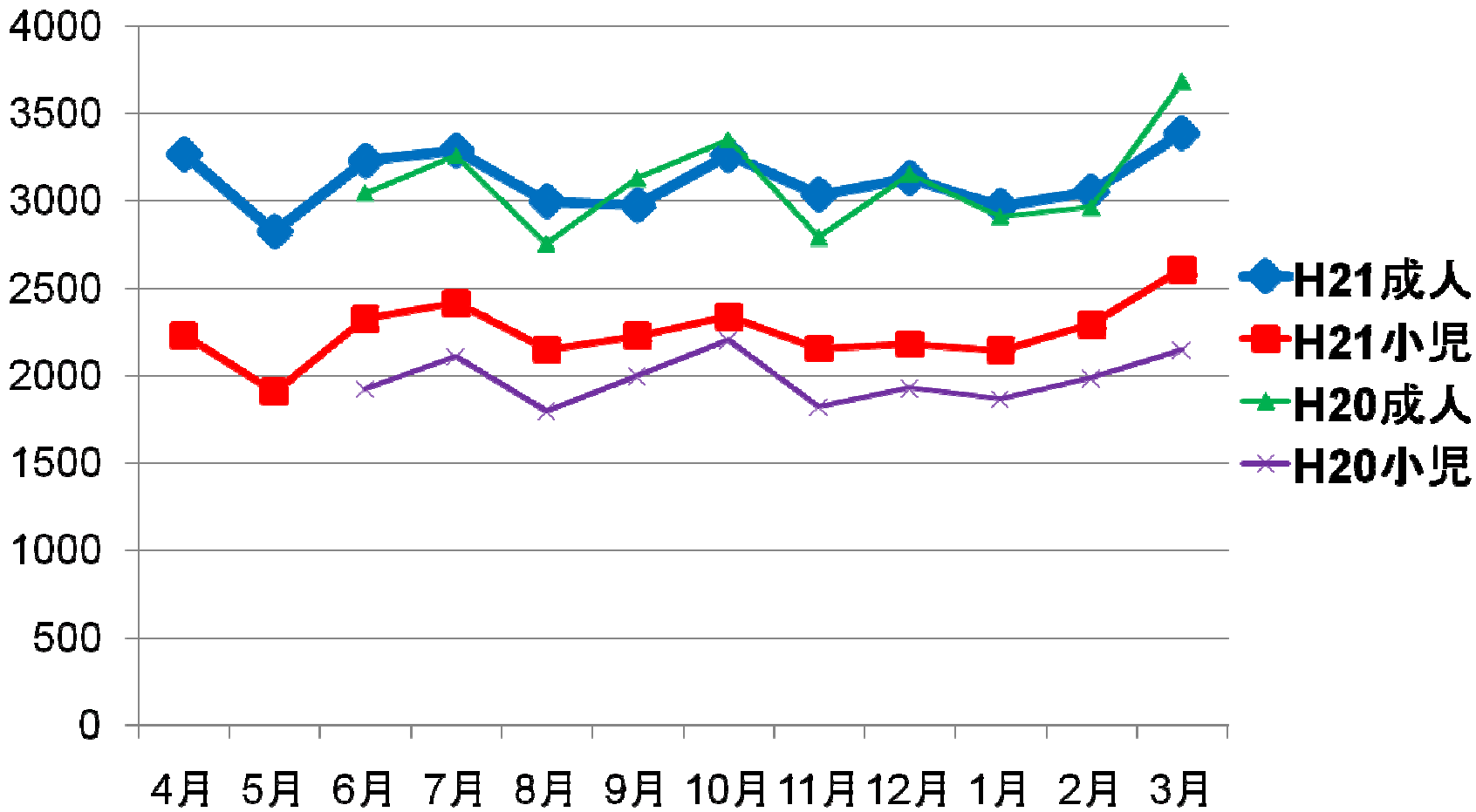
・脳波の読み方　2009年4月、10月

・てんかんの基礎知識　2009年5月

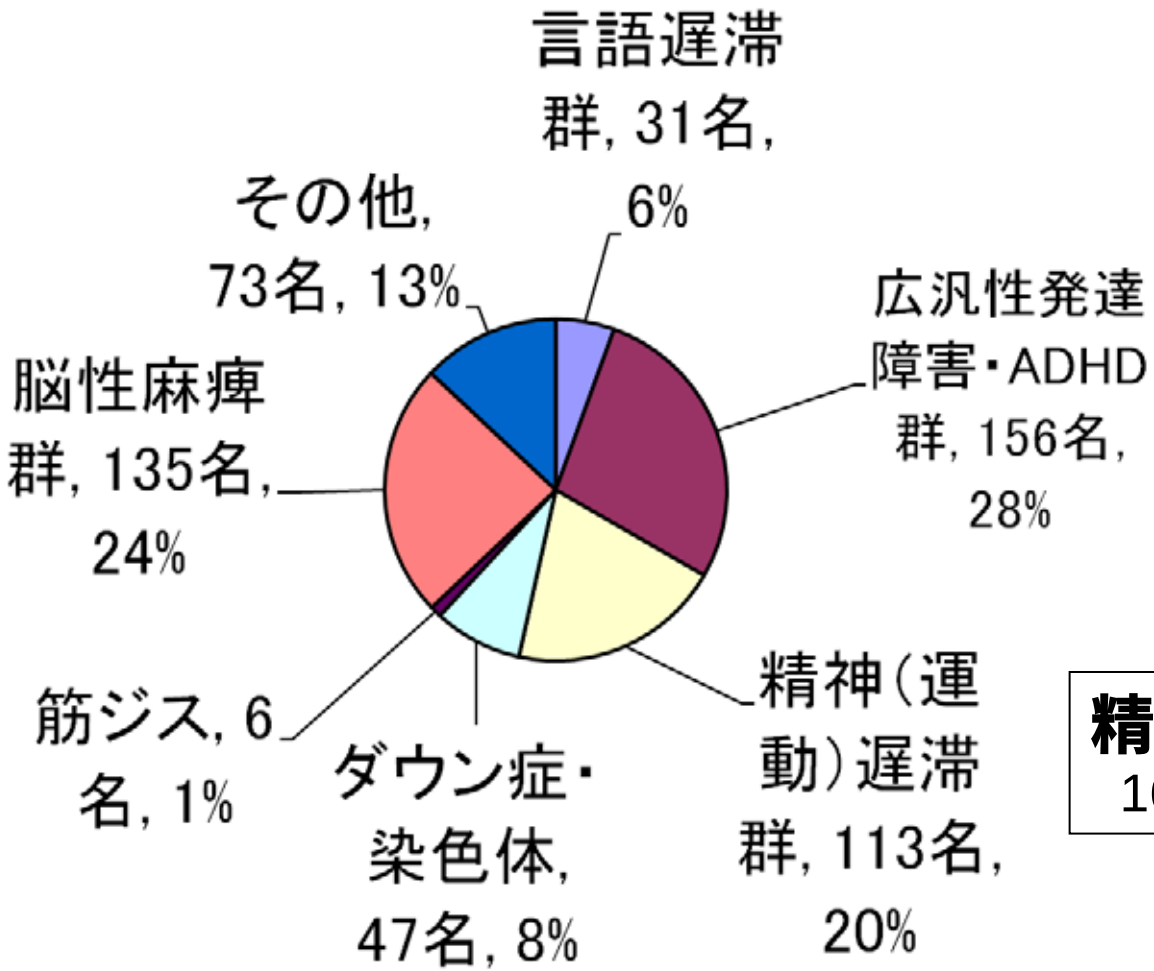
・アスペルガー障害とてんかん　2009年8月

・こどもの発達の特徴と育てかた2009年12月

外来患者数


4000
3500
3000
2500
2000
1500
1000
500
0
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月
H21成人
H21小児
H20成人
H20小児

2009年度小児患者数560名内訳



精神遅滞群
160**名**,29%

認定資格関係

日本小児科学会専門医 787

日本小児科医会「子どもの心」相談医 1253

日本小児神経学会専門医 1008

日本神経学会指導医　444

日本神経学会教育関連施設 20090750

日本てんかん学会臨床専門医 73

日本病院機能評価機構産科医療補償制度

診断協力医

2009年度講演・学会発表

1)「てんかん治療の歴史」
日本てんかん協会福岡県支部
第30回総会記念講演会　2009.4.29.

2) Clinical Features of Epilepsy with
Pervasive Developmental Disorders
International Symposium on Epilepsy
in Autism Spectrum Disorders 2009.5.3.

3)「こどもの脳を育む　ー　発達の特徴と育てかた」
市民公開講座2010.11.15

4)「発達障害の病態と治療　ー　教育と医療の連携を求めて」
筑紫地区小学校校長会 2009.11.27.
大宰府西小学校研修会 2010.2.19.

5)「脳を育む ー　発達障害の視点から」
子育てを考える福岡会議 2010.2.6.

小児部門2010年度活動目標

1) 診療体制：ホームページ“小児リハビリテーションの広場”の立ち上げ
2) 院内研修：新患紹介カンファレンス（毎週月曜日），小児勉強会の継続（第4月曜日）
3) “筑紫地区発達障害懇話会”発足

誠愛リハビリテーション病院
小児リハビリテーションの広場

- ①1発達には歩行、摂食、睡眠、排泄などいろいろの分野の発達がある。
- ②**こどもの発達を手助けするには**イ）手間ひまかけて可愛がる、ロ)早寝、早起き、朝ごはん、ハ)テレビより親子の会話（　親は機関車、子は客車）、ニ) 噛んで含んで分からせる、ほめる、反復練習、憧れを持たせる。
- ③**母子相互作用**は対人関係の基本。生まれた直後の五感の役割。目；目と目のコンタクト、母親の顔はもっとも見えやす　い大きさと明るさをしている、耳：母親からの声かけはもっとも聞こえやすい、皮膚：接触による安心感、匂い：生まれて5日で覚える母の匂い、味：母乳の味と温度。
- ④**「早寝、早起き、朝ごはん」**とこどもの能力には関係がある。早起きは大人の自己研鑽にも有用。
- ⑤**あるがままのこどもを大切に**：こどもには自分でやってみたい・伸びたい気持ちが
- 　　強い、繰り返してあきない、褒められて喜ぶ、そして侮辱に敏感。（モンテッソリー）
- ⑥**行動療法**は生きやすくする技術：こどもの成長を伸ばすには、できることは自分でさせる、スモールステップ、
- 新しいことを学ぶ、反復練習、形づくりと消去。
- ⑦ **脳の機能と構造の関係**。能力が変われば脳は変わる。脳が変われば能力も変わる。
- ⑧「やって見せねば人は動かず」大人の教育における山本五十六の教訓。こどものほめ方。
- ⑨ 脳における集中力の中枢、記憶と情緒の中枢。
- ⑩ **健康づくりは習慣づくり、勉強づくりも習慣づくり。**
- ⑪ **時間の構造化、場所の構造化** → 大リーガーから学ぶ時間と場所を決めることの大切さ。
- ⑫ 発達の遅れたこどもから優秀なこどもまで：**障害児療育の理論は受験勉強にも応用する価値がある。**

⑬ 心身症の年代的推移 ⑭人生の区分と人生100歳時代の過ごし方：　冬（玄冬）、春（青春）、夏（朱夏）、秋（白秋）。

介護老人保健施設カトレア

平成22年度
運営について

平成22年4月21日
誠愛リハビリテーション病院院内勉強会

施設長　　岩瀬　豊子

本日の内容

1. 介護老人保健施設カトレアの新理念と運営方針

集団からより個別の対応へ（ケアプラン重視）

2. 今後の課題

・アンケート結果よりみえるもの
（key　word；地域、リハビリ、誠愛、接遇）
・在宅復帰率　　入所期間　　急変
新規利用者の介護量の増大とフロア管理
・・・・効率的なﾍﾞｯﾄﾞｺﾝﾄﾛｰﾙへ
・地域とのかかわり
・認知症短期集中ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ
・その他　　各部署の理念、運営方針

1. 介護老人保健施設カトレアの新理念と運営方針

集団から、より個別の対応へ
（ケアプラン重視へ）

介護老人保健施設カトレアの理念

住み慣れた地域で、

親しい人々に囲まれて、

お一人お一人が快適にすごせるように

最良の介護サービスを提供します

カトレアの運営方針

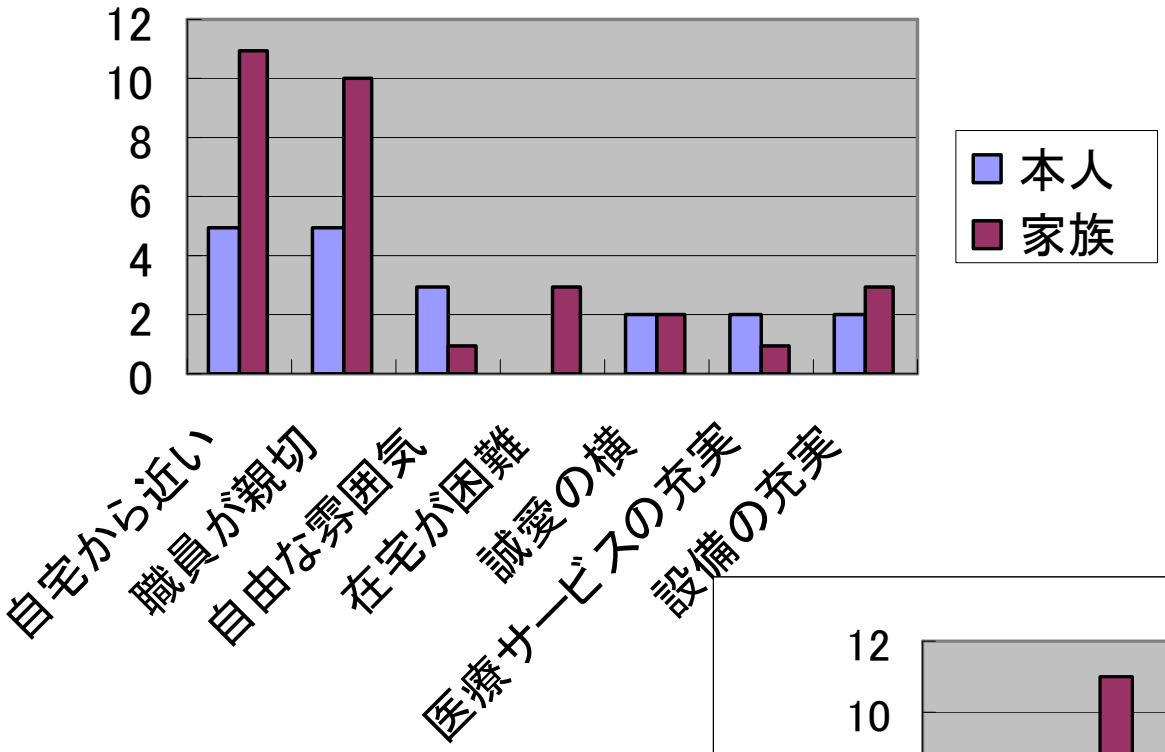
- カ　家庭復帰をめざします
- ト　共に手を携えて支援いたします
- レ　ﾚﾍﾞﾙｱｯﾌﾟをめざします
- ア　暖かく、明るい対応を行います

2. 今後の課題

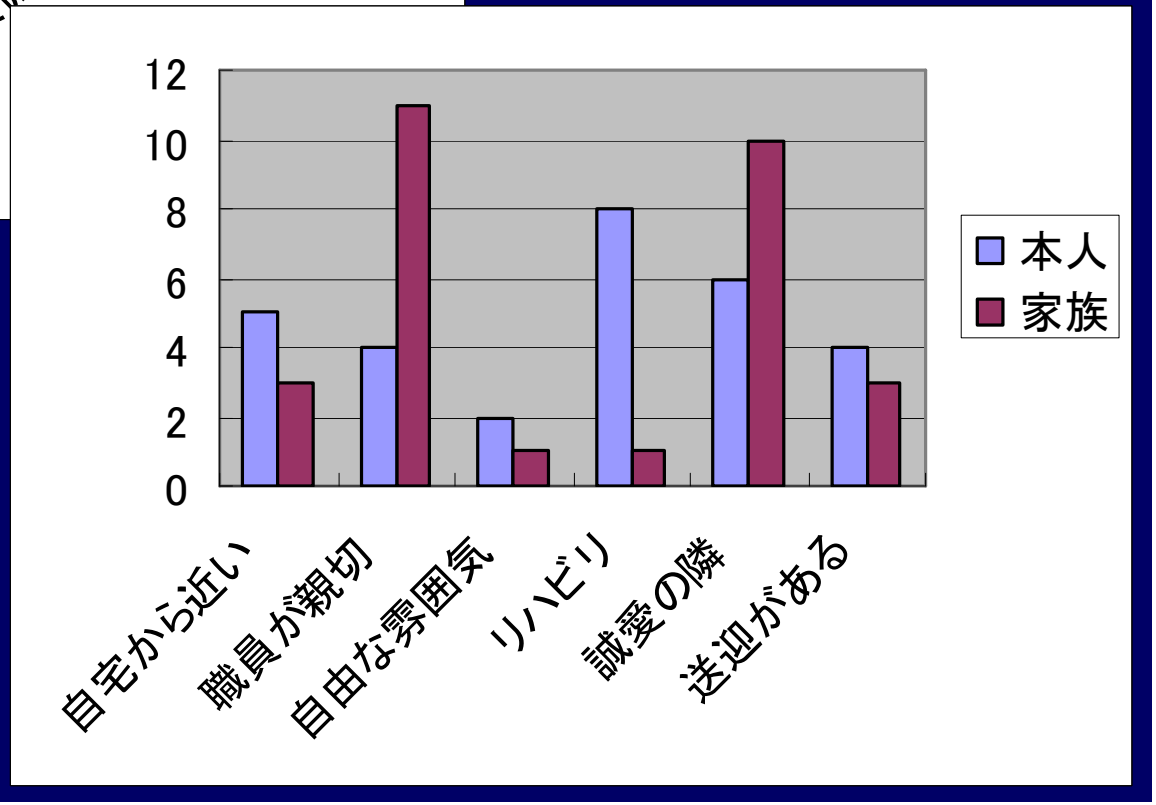
アンケート結果

カトレアを選んだ理由、もしくは
カトレアを継続して利用している理由
（調査対象、入所、通所のご本人およびご家族）

入所



通所



地域
リハビリ
誠愛
接遇

在宅復帰率

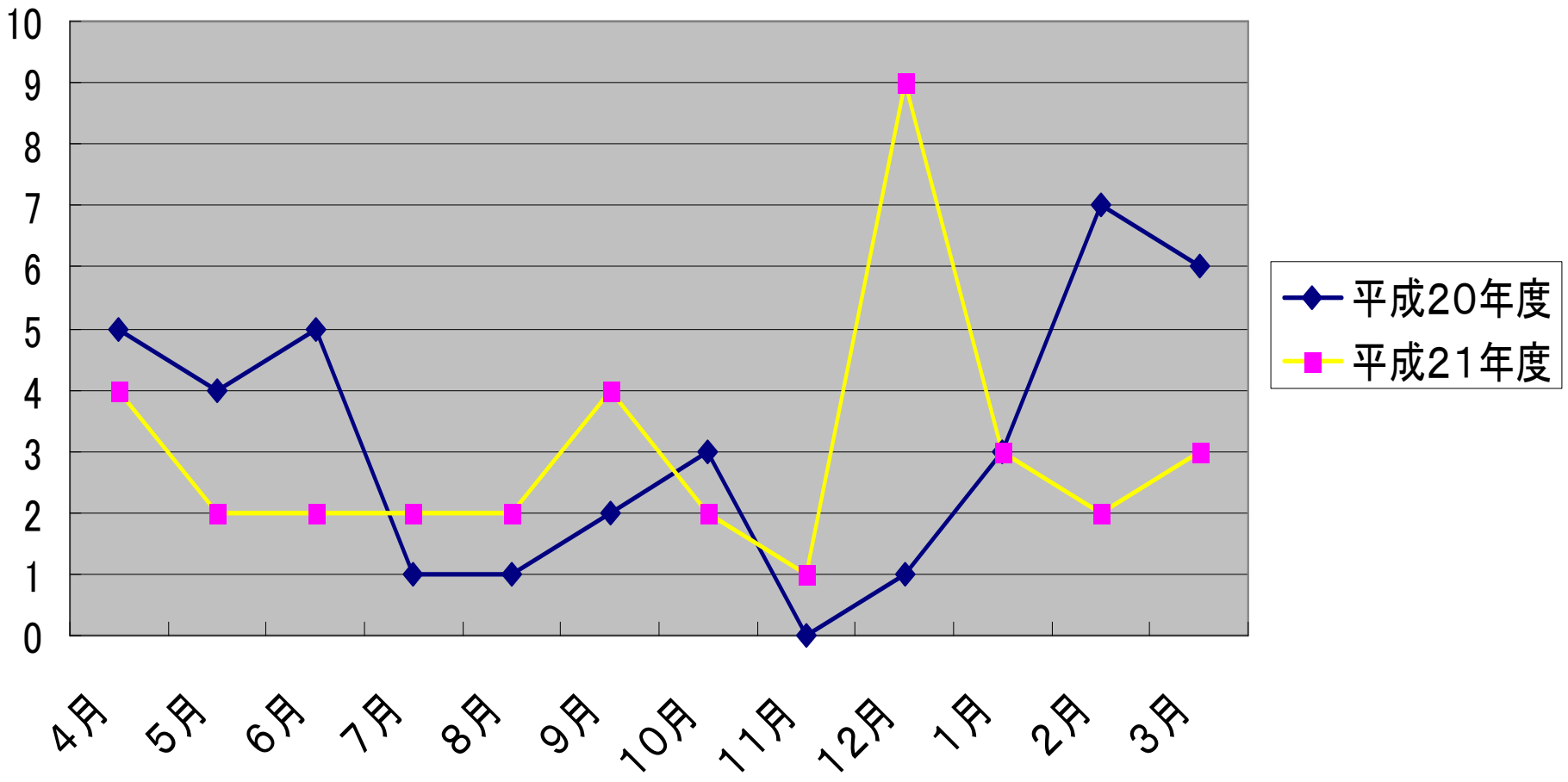
総退所者（急変、死亡退所を含む）に対する
1ヶ月間以上の在宅復帰者の割合

入所期間

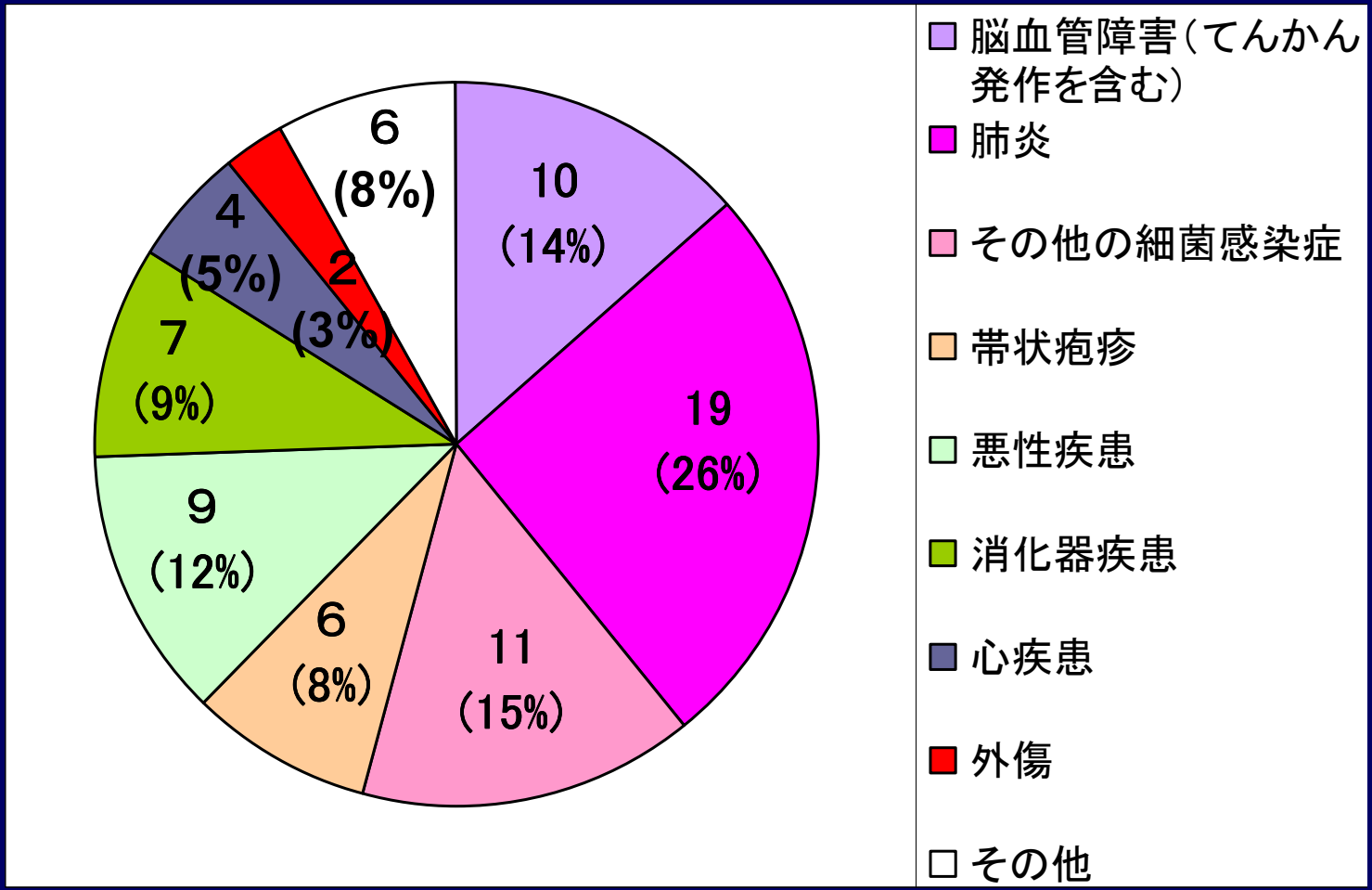
急変

病状変化によりカトレアで対応困難となり、
他医療機関（療養型を除く）に転院となったもの

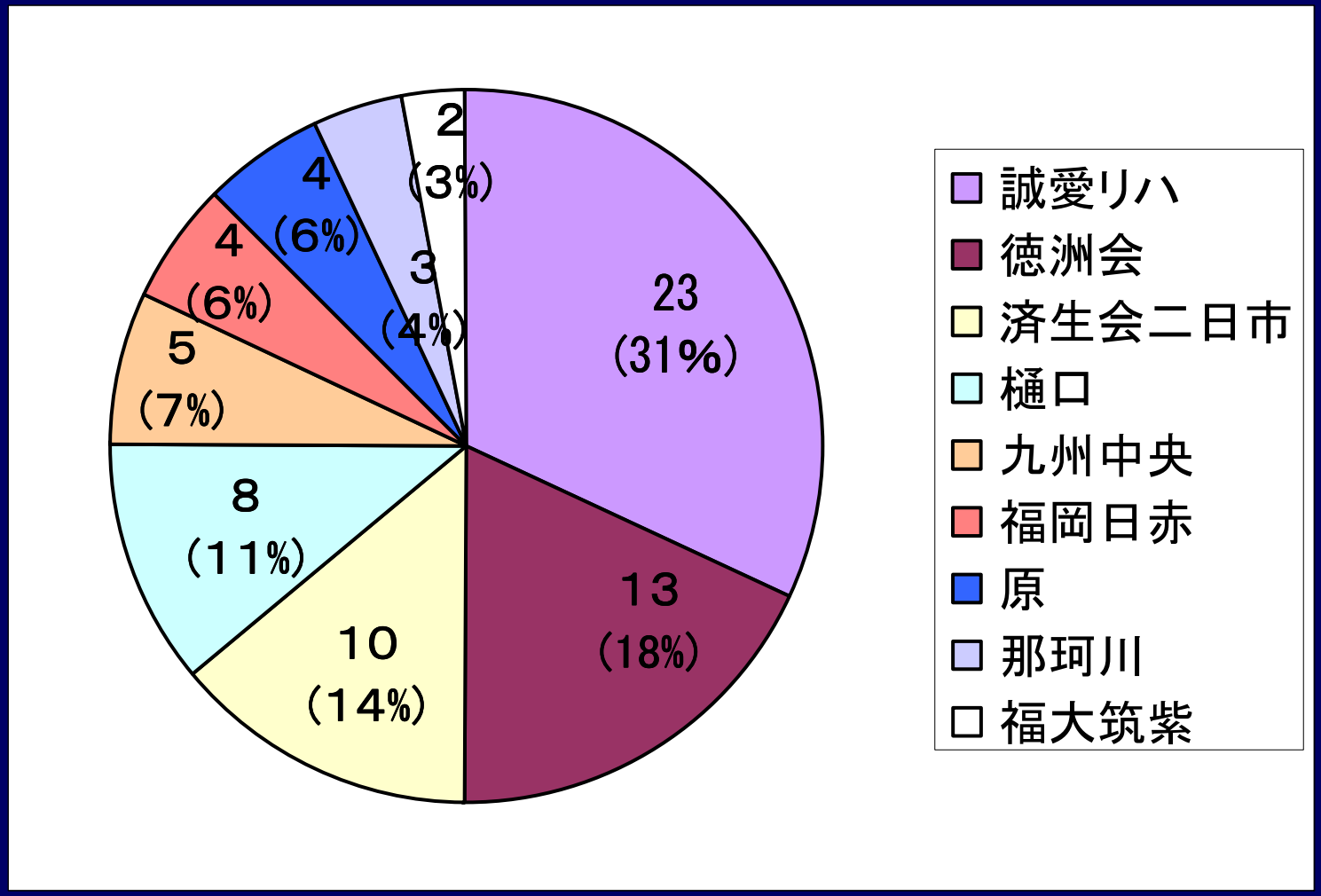
急変者数


10
9
8
7
6
5
4
3
2
1
0
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月
平成20年度
平成21年度

急変者（原因疾患）平成20-21年度



急変者（搬送先病院）平成20-21年度



新規利用者の介護量の増大とフロア管理

各フロアの状況

	定員	平均要介護度	日勤職員	夜勤職員
2F	46　人	2．00	4　人	1　人
3F	54　人	3．59	12　人	3　人

2F入所者の条件；

移動が遠監視でほぼ自立、移乗動作等1人介助、ナースコールを押　すことが出き、多少の時間待つことができる。

新規入所者の入所フロア

	H19年度	H20年度	H21年度
2F	7（26％）	5（13％）	3（12％）
3F	20（74％）	33（87％）	21（88％）

今後の入退所調整について

入退所調整

入所開始早期に、今後の方向性を決定

↓

・在宅復帰
・期間限定在宅復帰（リピーター）
・在宅不可能
・病状不安定

的確な
病状コントロール

介護課業務改善
フロア管理など

↓

ご家族、関係各部署、機関との密な連携

↓

在宅復帰率30%（在宅支援加算対象）、入所期間の短縮
在宅や他医療機関からのスムーズな入所

地域とのかかわり

南ヶ丘1区を中心とした地域とのかかわり

- 地域からのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｶﾄﾚｱ）・・・現在10名
  1Fﾌﾛｱでのｻｰﾋﾞｽ業務、利用者との談話
- 施設行事の参加案内
  夏祭り、敬老会
- 施設ｹｱ会議（南ヶ丘公民館）　平成22年1月より参加

今後の予定：地域行事（公民館主催）への利用者の参加

認知症短期集中リハビリテーション

その他

- 各部署毎に、理念、運営方針を作成

- 委員会の再編成

  ・入浴サービス委員会の新規設置

ご清聴ありがとうございました